

サピナカボソタマムシの新産地 松尾 隆人

兵庫県においてサピナカボソタマムシ *Coraebus ishiharai* Y.Kurosawa, 1943 は、宍粟郡波賀町氷ノ山で得られた1例(内藤, 1997)のみが知られている。

筆者は、段ヶ峰の標高750m付近のヤマボウシから本種を得たので報告する。

[採集記録]

1 ex., 朝来郡生野町栲原段ヶ峰, 14.VII.2001

<参考文献>

内藤隆夫(1997) 兵庫県におけるサピナカボソタマムシの記録, 月刊むし 322: 6

高橋寿郎(1998) 兵庫県のタマムシ(2), きべりはむし 26(2): 8

(MATSUO TAKAHITO 多可郡中町牧野748)

諏訪山公園のマイコトラガ 山口 福男

神戸市中央区諏訪山公園のマイコトラガ(*Maikona jezoensis* Matsumura) についてはさきに本誌第24巻第1号に報告したが、その後7年ぶりに2001年の早春に捕獲したので再報告する。

採集地 神戸市中央区諏訪山公園

2001年3月30日, 1頭 4月5日, 1頭

2頭ともに公園内の水銀灯に飛来し、夜が明けてもそのまま壁に静止していたものであった。兵庫県版レッドデータブックに記載のある希少種とされているが、同じ場所で続けて2頭も再捕獲されたことから、本種は少ないながら、当公園内で安定した生活をしていると思われる。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

スギの樹液に来ていたスジクワガタ 山本 勝也

兵庫県立人と自然の博物館と兵庫昆虫同好会が行った六甲山昆虫相調査のエリアに含まれる六甲山フィールドアスレチック内で、スギ *Cryptomeria japonica* D. Don. の樹液に来ていたスジクワガタ

Macrodorcas striatipennis Motschulsky を観察採集したのでここに報告する。

2001年8月14日、筆者は家族と一緒に盆休みを兼ねて、六甲山フィールドアスレチックで遊んだ。もちろん筆者にとっては昆虫調査も兼ねてなのだが...

アスレチック用具を固定するために、直径30cmほどのスギの幹に金属製のワイヤーが巻きつけてあり、その部分から樹液が出て発酵臭がしていた。

それを筆者の甥である山本航平君が見つけた。樹皮下のスジクワガタ1匹を採集した。その後、筆者も一緒になって採集された樹皮下あたりを丁寧に見ていくと1匹を追加採集することができた。またヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus* (Motschulsky) も数頭、同所にいた。

本種を含む樹液に集まる昆虫類は普通、広葉樹で見かけることが多いと思う。針葉樹の樹液も条件によっては発酵し昆虫類が集まるようである。ネプトクワガタについては針葉樹であるモミの樹液に集まる¹⁾事が知られているようである。注意深く見ていくと針葉樹でも案外クワガタムシを得ることができるのかもしれない。

<参考文献>

1) 岡島秀治・山口進(1988) 保育社 検索入門
クワガタムシ: 141

(YAMAMOTO KATSUYA)

神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1)

ウスバツバメガの幼虫騒動 近藤 伸一

ソメイヨシノが自宅にあり、道に面して生えている。20年前に親指ほどの大きさの苗木を植えたものが幹周り70cm、高さ7mの大木になった。このサクラの葉が毎春ムシにやられるのだが、2000年は特にその被害が大きかった。木の下を通ると幼虫が葉を食べる音がしてフンがポトポトと落ち、舗装道路はいくら掃除をしても、すぐにフンで茶色になる。特に雨の日は悲惨でヌルヌルになり、通行人にはひんしゆくをかっているはずである。

2000年5月20日は休日朝から雨で、ヌルヌルになった道をバケツであらい流した。近所の人に「これがあるからサクラは植えないんですよ」といやみを言われながら黙々と掃除をした。葉はほとんど食